

別冊②

熊本市地域福祉計画に関する意見集

熊本市地域福祉計画についての意見一覧

ご意見	委員
<ul style="list-style-type: none"> ・地域においては、高齢化・少子化があり、地域でのつながりが薄くなってきているため、お互いにたすけ合うということが難しくなっています。 地域共生の推進の中では、高齢や子ども、障がいに関わらず、相談ができる窓口が必要ではないかと感じています。 	宮崎 委員
<ul style="list-style-type: none"> ・第4次地域福祉計画策定のために新たに設置する「地域福祉専門分科会」の委員構成案が示されたが、福祉分野に偏り過ぎの人選であるのが極めて遺憾。 ・参考資料「第4次熊本市地域福祉計画の策定について」にも、同計画の基本的方向性として「我が事・丸ごとの地域共生社会の実現」を掲げ、「制度・分野ごとの『縦割り』や「支え手」「受け手」という関係を超え」としているにもかかわらず、なぜ計画の策定に多分野のメンバーを組み込まなかったのか。 ・仮に、同資料の「計画体系図（案）」の「連携・整合」の矢印をもって「一体的」と見なそうとするのであれば、それはあまりにも乱暴な考え方と言わざるを得ず、まさにこれまでの長きにわたる「縦割り」の体質が何一つ変わっていないことを、熊本市が自ら市民に示している、と指摘されるであろう。 ・まず、決定的におかしいのは「当事者」が委員に含まれていないこと。障害者権利条約には「私たちのことを私たち抜きで決めないで」というスローガンが掲げられているが、地域福祉を考える際に、障害者のみならず、地域に暮らすあらゆる人たちの声が可能な限り反映できる構成にすべきと考える。 ・さらに、「Society5.0」の社会が熊本市でもあつという間に（一部ではすでに）実現することを明確に踏まえた計画としなければ、計画体系図（案）に示されている「SDGs（持続可能な開発目標）」の達成は極めて困難と考える。 <p style="text-align: right; margin-top: 20px;">（次ページにつづく）</p>	松村 委員

熊本市地域福祉計画についての意見一覧

ご意見	委員
<p>(つづき)</p> <ul style="list-style-type: none"> <p>・キーワードは「AI（人工知能）の急速な進展」と「外国の方々の共生」。計画の最終年度（2024年度）には間違いなく、私たちの「まち」のあらゆる場面で、多種多様な「AI」と「外国人」に触れ合うことになる。特に「医療」「介護」「教育」「住まい」「交通」「流通」「農業」「防犯」「防災」等の分野では、状況が一変することも十分にあり得る。そうなっていく「地域」では、今後どういった「福祉」の在り方が求められるか、という視点が、第4次計画にはどうしても必要と考える。そして、そのためにはそれらの分野からも、最初の計画策定段階から、広く委員を募って審議を深めることが不可欠である。</p> <p>・また、あらゆる計画には「PDCAサイクル」が適正に機能することが必ず必要で、特に「縦割り」を無くした計画であれば、尚のことちゃんと運用することが義務付けられるはず。であれば、同分科会は策定までの「時限組織」でなく、策定に携わった者（組織・機関）の役割として定期的な審議・検証を継続していくことが必要だと考える。</p> <p>・これからの少子高齢の時代は、自治体の予算（税収）は減り続けることが避けられない。熊本市でも、限られた予算をいかに市民の理解を得ながら、市民のニーズに適正に運用していくかが、最大のテーマとなろう。「市民目線」の施策を行うための計画づくりに、多様な人材の参加は必然と考える。</p> <p>・7月31日の審議会では、同分科会での計画策定スケジュールが示されると思うが、日程だけでなく、具体的にどういう内容を、どういうメンバー（組織・機関）で、どういうねらい（目的）で検討するのか、具体的に分かりやすく説明していただきたい。熊本市が「どうしたい」と考えていることを、審議会委員全員に「可視化（見える化）」することは極めて重要と考える。</p> 	<p>松村 委員</p>